

# 山の森・里の森・街の森を守る



岐阜県森林づくりキャラクター

## 県民フォーラム

### 「県民協働による持続可能な森林づくり」を目指して

森林は私たちの生活にとって大切なものです。中でも、身近な里山林はふるさと岐阜の原風景ともいえるでしょう。しかし、こうした里山林も、人と山との関係が薄れ、放置された森林が多くなっています。

岐阜県の森林を守り、育てていくためには多くの県民の皆さんの協力が不可欠なことから、県では岐阜県森林づくり基本条例のもと「県民協働による持続可能な森林づくり」を進めています。

近年、この大切な森林を自分たちの手で守り育てていこうとする市民やNPOなどの地域活動は活発化していますが、さらに多くの県民の皆さんの理解と協力を期待するものです。

今回、市民と森林との関わりが深いドイツの事例を学びながら、里山林を中心とした私たちの身近にある森林について、その働き、保全・育成や利用方法など様々な面から県民の皆さんと一緒に考えるフォーラムを開催します。多くの皆さんのご参加をお願い申し上げます。

2007年  
**10/8** (祝) (月) 14:00~16:30

講演会／14:00 パネルディスカッション／15:10

長良川国際会議場大会議室 (岐阜市長良福光)

募集人数／300名

参加費無料

#### スケジュール(予定)

- 14:00~15:00 開会あいさつ(岐阜県知事 古田肇)  
基調講演「人間生活における森林の重要性」  
講師:リチャード・ポット氏(ドイツ・ハノーバー大学教授)
- 15:10~16:30 パネルディスカッション「山の森・里の森・街の森を守る」  
座長:宮脇 昭氏(国際生態学センター長)  
パネリスト:  
小林由紀子氏(岐阜県森林審議会委員 NPO法人e-plus生涯学習研究所代表理事)  
林 仙一氏(木の国・山の国1000人委員会委員 NPO法人リバーキーパー・ジャパン事務局)  
横井 秀一氏(岐阜県森林研究所主任専門研究員 農学博士)  
リチャード・ポット氏(ドイツ・ハノーバー大学教授)  
ハンス・ヨアヒム・レンケ氏(ドイツ・前ニーダーザクセン州環境副大臣)  
マレー・ピッツ・ドルガルスキー氏(ドイツ・中学校教諭)

参加者の中から  
苗木を抽選で  
150名に  
プレゼント  
します

#### プロフィール



リチャード・ポット  
【ドイツ・ハノーバー大学教授】  
1951年ドイツ・テクレンブルグ生まれ。潜在植生理論の生みの親、ラインホルド・チュクセン教授のもとで、植物社会学を学ぶ。現在は「自然資源の有効活用による都市の活性化」にも参画し、自然保護の思想から積極的に人間と自然との共生の方法を提案している。



宮脇 昭  
【(財)地球環境戦略研究機関・国際生態学センター長】  
広島文理科大学卒。専門は植物生態学。「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」を提唱し、国内外で啓発・実践活動を積極的に行う。「植物と人間」「木を植えよ」など著書多数。

主催／岐阜県 後援／岐阜市・(社)岐阜県山林協会・岐阜県森林組合連合会・岐阜県木材協同組合連合会



参加申し込み方法・会場案内図など詳細は裏面をご覧ください。